



2024 年度法学検定試験合格体験談

ベーシック〈基礎〉コース

スキル向上を目指して

今回、私が法学検定試験を受験した理由は2つありました。1つ目は、私の将来の夢が家庭裁判所調査官であるため、将来を見越した法律知識のスキル向上の第一歩にしたかったからです。2つ目は、私が通っている大学では、2年次以降から専門的な学習がはじまるので、それまでに予習として基礎知識を定着させたかったからです。以前から法律の勉強には興味がありましたが、受験を決める時点でほとんど法律の知識がなかったので不安もありましたが、挑戦することになりました。

知識がほとんど0の状態からの勉強は非常に辛かったです。2時間で5問進めようと思っても、3、4問しか進まず、余ってしまった分が溜まると時間もなくなり、ますます焦燥感が募っていきました。はじめて知る知識ばかりでしたが、大学の授業で扱う教科書や動画配信サイトに投稿されている解説動画を見てなんとか、少しずつ理解していきました。このように、苦労しながらも着実に1問1問しっかりとクリアしていくうちに、気がつけば1分野、2分野と終了していき、自分にも自信を持てるようになりました。どれだけ時間がかかっても、諦めずに続ける大切さを学ぶことができました。

法学の世界は奥が深く、まだまだ学びたいことがたくさんあります。今後は、自分のスキル向上のために、さらなる高みを目指して法学の勉強に励んでいきたいと思います。この度は、光栄な賞を頂き、本当にありがとうございました。

(ベーシック〈基礎〉コース・最優秀賞・H・Oさん 19歳・青森県)

法学と精神医学の架け橋として

今回は栄えある賞に選出頂き誠にありがたく存じます。

私は現在、香川県の精神科病院で精神科医師として勤務している者です。元々は東京大学法学部にて司法試験を志しておりましたが叶わず医学部再受験に転向した過去があります。

精神科医としてまだまだ未熟ながらもある程度の年数を修養してきた身として、法学の勉強への思いが再燃して参りました。とりわけ、母校で英米法を御教授頂いた樋口範雄先生が『医療と法を考える』にて著述されているように法学と医学が交錯する場面は多く、とりわけ精神科分野においては、患者さんとの治療関係も含めて法的な議論が焦点となる側面を多く目の当たりにしており、現在盛んに提唱されるリスキリングの波に自分も乗ろうと決意し、法学検定試験に挑みました。

対策としては公式問題集を解くことが中心にはなりますが、刑法に関しては薄い入門書を、それ以外の科目に関しては行政書士試験対策の市販書を購入のうえ、基礎知識の復習に努めました。また、公式問題集を解答する際にも、単に解いて終わるだけでなく、解説部分を「条文は緑マーカー、判例は青マーカー、それ以外の重要部分には赤線」とマイルールを設定して一貫性のある演習を心掛けました。また、公式問題集以外にも法科大学院共通到達度確認試験がベーシック・スタンダードの水準に近く、かつ公式ホームページで公開されている解説も同様に詳細かつ分かりやすく記載されていたため、苦手分野については適宜参照しておりました。

今回はベーシック56点で3位、スタンダード68点で17位と自分の実力を超えるように思える結果を出すことができました。本業である精神科医としての役割は充分果たしつつも、今回の栄誉に慢心することなく法学の学習を継続し実力をさらに向上させることで、微力ながら法学と精神医学の架け橋としての存在という独自の役割を担っていきたく存じます。

(ベーシック〈基礎〉コース・優秀賞・井手雅紀さん 39歳・香川県)

法律を学んだ証として

私が法学検定試験を受験した理由は法律を学んだ証を残したかったからです。大学の法学部に入学し法律の学習に精を出していた際に、家族から法律を学んだ証として資格を取得することを勧められました。最初は乗り気ではありませんでしたが法学検定試験のサイトを見つけ、その存在を知りました。サイトでは、試験が全国的に行われていること、試験対応の問題集があること、その問題集から試験に 6～7 割が出題されることなど、法学検定試験が挑戦しやすい試験であることがわかりました。また、大学の修学案内を見ると法学検定試験が単位認定の対象であることもわかり、一石二鳥の資格であることが判明しました。これらは挑戦への大きな動機づけになりました。

本格的に勉強をはじめたのは入学から 1 年が経った頃でした。当時はすでに大学で 1 年間法律を学んでいたこともあり、ベーシック〈基礎〉コースとスタンダード〈中級〉コースを同時に受けることにしました。そのため、念のために早めにはじめることにしたのですが、今振り返ると早めにはじめて正解でした。大学の授業や部活動、アルバイトなどと並行して毎日少しずつですが着実に進めることができました。具体的にはそれぞれの問題集を丸ごと 2 周したのに加え、苦手な問題をピックアップし、さらに繰り返し解きました。最終的には両コースにおいて excellent 合格を頂けたので大きな達成感が得られました。

今回法学検定試験を受験したことには私にとって大きな意義があったと思います。法学部で法律をしっかり学んでいると自信を持つことができ、大学生活に意味があると実感できました。今後法学検定試験に挑戦される方の参考になれば幸いです。

(ベーシック〈基礎〉コース・優秀賞・中筋望さん 20 歳・香川県)

法律の学習の理解の基盤に

今回私が法学検定試験を受けたきっかけは、大学で試験の紹介を受けたことでした。私の通っている大学では、この試験の受験を支援する制度や合格した際の単位認定制度があるため、受験を前向きに考えていましたが、大学の授業でまだ習っていない範囲が試験で出題されるため受験を迷っていました。しかし、今までの学習の復習、そして今後習う範囲の予習になると聞き、大学の授業で得た知識を試験勉強を通してより定着させたい、これから学ぶ範囲の理解の基盤にしたいと思い、受験することを決意しました。

私は問題集の問題を解き回答と解説を読み、条文を引くという方法で勉強を進めていました。勉強方法はとてもシンプルなものですが、自分の言葉で言語化することを特に意識して勉強しました。問題を解き解説を読み込み一問ごとに解説とは異なる言い回しで、問題を解く方法の説明を考えました。その際、説明するのに行き詰ってしまった点をまだ理解できていない箇所だと考え、条文や解説を読み直したり他の資格の参考書の該当するページを読んだりしました。自分がどこまで理解できているのか、どこからが理解できていないのかを言語化することで明確にすることで、今の自分に足りない知識を確認することができ、勉強をより効率的に進めることができたと思います。

さらに、間違えてしまった問題だけでなく正解だった問題についても説明する方法を考えることで、正解だったものの理解が曖昧になっていないか、間違った知識や理解で正解を導いていないかなどを問題を解く度に確認することができ、理解をより一層深めることができたと思います。

私の将来の夢はまだ明確には決まっていますが、法律に関わる仕事に就きたいと考えています。そのためにまずは学校の授業や資格試験の勉強に取り組み法律についての理解を深め、そのなかで自分の将来についても考えていきたいです。今回の試験を通して得た、文章を読み込みさらに自分の言葉で言語化するという勉強方法は今後も法学を学び続けるうえで有用だと思います。今回の試験勉強を今後の勉強にも活かし、将来の夢を実現できるよう努力を続けていきたいです。

(ベーシック〈基礎〉コース・グループ賞・平尾はるさん・名城大学 1 年)

法律の勉強の第一歩として

私の在籍している大学で法学検定試験ベーシック〈基礎〉コースの合格を目指した授業があり、その授業を受講したことから、法学検定試験を受けました。この授業は法学検定試験ベーシック〈基礎〉コースのみでしたが法学の知識をさらに深めたく、スタンダード〈中級〉コースとともに併願受験しました。

当時、私は入学して半年ほどしか経っていない大学 1 年生で、法学を学びはじめたばかりであり、あまり知識がありませんでした。しかし、授業を受けていくなかで「法についてもっと知りたい」と思うようになりました。ベーシック〈基礎〉コースとスタンダード〈中級〉コースと一緒に受験できることを知り、合格に向けて勉強を始めました。はじめはベーシック〈基礎〉コースの勉強だけで精一杯で、スタンダード〈中級〉コースの勉強までできるかわからない状態でしたが、授業での先生の解説を聞きながら問題を繰り返し解いたり、難しく感じたところを先生に聞いたり勉強していくうちに少しずつわかるようになってきました。ベーシック〈基礎〉コースで学んだ基礎的な知識をスタンダード〈中級〉コースでの応用的な問題で生かして勉強できたことが合格につながったのではないかと思います。

2 つのコースを受験したことによって、基礎的な法律の知識を学ぶことができたため、今後の法律の授業がわかりやすくなると思います。法学検定試験で得た法律の学びを深めていけるよう、これからも法律の勉強を続けていきます。この試験で法学の学びの第一歩を踏むことができました。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・S・K さん・大阪経済法科大学)

次はスタンダード〈中級〉コースで excellent 合格

私が法学検定試験を受験しようとしたきっかけは 2 つあります。1 つ目は私が通っている大学ではこの試験に合格することで単位認定されると聞き、挑戦してみようと思いました。ベーシック試験の範囲は問題集から 6 割〜7 割が出ると聞いていたのであまり難しく考えずに気軽に挑戦することができました。もう 1 つは就職活動を意識したからです。大学に入学してから資格勉強をしてこなかったのも、せっかく法学部に入ったなら法学系の資格をとろうと思いました。勉強方法は至ってシンプルで、問題集をひたすら解き、解説で復習し、授業のレジュメを見返したりすることを何度も繰り返しました。

一緒に受験した友達のなかには、試験の 3 週間前から勉強をはじめて合格している人もいましたが、私は心配性なので 2 ヶ月前から公式問題集を買い、何度も何度も問題を解いたおかげで試験 1 ヶ月前にはベーシック〈基礎〉コースは受かるだろうと確信するまでに至りました。そこからスタンダード〈中級〉コースの試験勉強をしようと思いましたが、少し公式問題集の内容をチラ見するとかなりレベルが上がるように感じたのでスタンダード〈中級〉コースを受けるのを断念し、ベーシック〈基礎〉コースの学習で基礎を固めるようにしました。

今後の目標としては、次は必ずスタンダード〈中級〉コースを受けて、同じように excellent 合格できるように勉強したいです。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・関谷隆誠さん・南山大学)

法律の学習を深めるために

私が法学検定試験を知ったのは、大学で行われた単位認定のガイダンスに参加したことがきっかけです。ガイダンスの中で、2年生以降にこの検定に合格すれば単位を取得できるという説明があったので、今まで学習した部分を効率よく復習することもできるかと思い、今回受験することになりました。

私の勉強方法は、とにかく短期間で公式問題集を1周し、そこから後は、関連する参考書を確認して間違えた問題や疑問の残った問題を1つずつ潰していくというやり方でした。1周目では、学習が進んでいた憲法と刑法はそこまで苦戦することはありませんでしたが、民法はまだ学習していない分野が多かったので、逐条六法なども参照しながら該当する1つ1つの条文を確認して、理解に努めました。2周目からは、わからなかった問題を中心に繰り返し解いていって、検定本番までに問題集を3周解きました。そして、試験本番では、問題集に掲載されていた問には難なく回答することができましたが、初見の問題は間違えてしまったものが多く、課題の残る結果になりました。

今回の試験を受けるまで、学んできた法律の知識を使って問題を解く経験は大学でのテストのみでしたが、法学検定試験を通して、実際に問題を解いてみることで自身が苦手とする部分を洗い出せたり、単に法律書を読むだけでは気づかなかった疑問点を見つけたりすることができ、法律への理解がより深まったことを実感しました。

繰り返しになりますが、今回の検定では、学んだ知識を実際に使うことが、その定着に有効な方法であると学びました。私は将来、何か法律に関する職業につきたいと思っているので、行政書士試験の参考書と問題集を買い、資格勉強にチャレンジしながら今まで学んできた知識の定着を図っています。また、私は租税法のゼミに所属し、所得税法や法人税法を勉強しています。法人税法には、簿記の知識が絡んでくるので、より理解を深めるために、簿記の勉強も始めました。簿記と法律はまったく関係のないものだと思っていましたが、勉強していくうちに両者が密接に関わっていることを知り、法律は、他の分野とも重なり合う奥深い学問なのだと感じています。

法学検定試験を通して、私は、学ぶことの面白さをあらためて味わうことができ、より法律に対する学習意欲を高めるきっかけを掴むことができました。このチャンスが無駄にしないように、これから勉強に励みたいと思います。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・S・Oさん・南山大学)

併願受験で excellent 合格

今回、法学検定試験の験に至ったきっかけは、大学の支援制度として受検料の一部補助を受けられるほか、単位認定されるなど、大学で受験しやすい環境が整っていることでした。

受験するからには、単に合格するのではなく、excellent 合格を目指したいと思い、夏頃に購入した公式の問題集を中心に勉強を進めました。まずは自分の実力を把握するために1周し、そこで間違えた問題や自信のない問題の解説を丁寧に頭に入れることに集中しました。また、大学で所属している「法学研究部」の部活動では、先輩方が部活の時間を使って練習問題の作成や解説をしてくださり、親身に勉強をサポートしてくださったおかげで、継続的な学習に繋がりました。問題集を4周ほど解いてから本番に臨んだ結果、excellent 合格をすることができ、努力の成果が得られて嬉しかったです。

将来の進路は具体的には決まっていますが、何かしらの形で法律に関わりたいと思っており、今後もさらなる資格取得に励んでいきたいと考えています。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・渡部楓子さん・松山大学2年)

団体受験としての取り組み——大阪経済法科大学

大阪経済法科大学法学部では、1年生全員に法学検定試験〈ベーシック〉の受験を推奨し、正課授業を用意して合格に向けた学修に取り組んでいます。その趣旨は、①憲法・民法・刑法・法学入門の法律基本科目の理解の定着、②2年次以降の専門科目の予備学修およびさらなる資格の取得、③合格体験を通じた学修意欲の維持・向上にあります。

2024年度法学検定試験〈ベーシック〉の合格者156名のほとんどが1年生であり、1年生の学修成果が表れたものと考えています。

今後も多くの合格者を輩出できるよう、丁寧な教育を行ってまいります。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・大阪経済法科大学)

団体受験としての取り組み——松山大学

松山大学法学部では、2021年度から教育の内部質保証を強化する目的で、学生の教育成果を図る客観的な外部指標の1つとして、2年次生に「法学検定試験」の受験を推奨してきました。受検料の一部補助や合格者に単位を認定する制度を導入し、インセンティブを設けることで、学生の学習意欲を高めています。2024年7月には、同年11月に受検予定の2年次生を対象とした法学検定試験説明会を開催し、試験内容の解説や2023年度の合格者による合格体験談の紹介がなされ、受検生たちに貴重なアドバイスと励みを提供しました。

法学部のこうした取り組みは着実に成果を上げており、学生の成長と学部全体の発展に大きく寄与しています。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・松山大学)

スタンダード〈中級〉コース

夢のプロローグ

私は、法科大学院ルートで司法試験合格を目指している大学生で、今は法科大学院入試に向けて日々勉強しています。私が、法曹を目指そうと決意したきっかけは、大学に入学して、とある先生と出会ったからです。その先生は、元裁判官で、私に法律の面白さや、法律を学ぶにあたって大切なことを教えてくれました。法曹という職業は以前から私の憧れの職業だったのですが、その先生と出会ったことで本気で司法試験合格を目指そうという決意が固まりました。

私が法学検定試験を受験しようと思ったきっかけは、司法試験合格に向けた足掛かりになると思ったからです。私は、司法試験予備校を利用して、学習を進めているのですが、講義を聞くというインプットだけでなく、アウトプットもしないと知識が身につかないと感じたため、良質な問題が多いという法学検定試験問題集を使って、短答式試験の勉強を始めました。そして、学習の成果を確認するために法学検定試験に申し込みました。

勉強方法としては、とにかく問題集を多く活用しました。1 周目は予備校の講義で学んだ範囲を講義の復習もかねて解きました。その際に意識した点は、正解の肢も不正解の肢も、なぜ正解（不正解）なのかを理解することです。法律の学習ではただ暗記するだけの方法は良くないということを教わったので、その肢がなぜ正解（不正解）ということを理解するために、解説を読み、ときには予備校のテキストや判例集、基本書なども参照して勉強しました。そのようにすることで、2 周目以降はスムーズに問題を解くことができました。また、2 周目以降の学習で用いてとても便利だと思ったのが、「法学検定試験学習ツール」というスマホやパソコン等を用いてインターネット上で学習することができるシステムです。これを利用することによって、通学中等の隙間時間を上手く活用することができました。このような勉強方法で試験当日までには、問題集を 8 周程度回すことができ、問題集に載っている問題は完璧な状態で試験に臨むことができました。

他にも、同じく法学検定試験を受験した友人たちと、試験日の 2 カ月前から週 2 回程度の勉強会をしていました。そこで、分からない問題を教え合ったりすることでより理解が深まったり、勉強の良いモチベーションになりました。

今回、良い成績が残せたのは、講義をしてくださった先生やともに勉強してくれた友人達のおかげでもありますが、この成績を残せたことで、司法試験合格という夢に向けて、一歩を踏み出すことができた気がします。

（スタンダード〈中級〉コース・優秀賞・石橋 侑大さん 19 歳・東京都）

さらに法律の勉強を深めたい

私が法学検定試験を受けた理由は、大学で開講されている法学検定試験ベーシック〈基礎〉コースの講義を受講した際に、受験を推奨されていたためです。それに加えて現在大学 3 年生であり、1 年生や 2 年生で学んだ内容を忘れていない部分もあるため、その復習に適していると感じたためです。民法や憲法、刑法の復習をしつつ、選択科目では他の法分野の学習もできることから法律の勉強としては最適な機会でした。

私の勉強方法は、公式問題集の解答練習がメインでした。法学検定試験の公式問題集には広く、多くの問題が収録されていて、特に必須受験科目は内容も濃かったため、最初はキーワードをざっとさらっていくことで自分の理解できている問題と、できていない問題を区別し、2 週目以降で正答のできなかった問題の読み込みを徹底的に行いました。

今回スタンダード〈中級〉コースの受験では運よく excellent 合格をいただいたので、次はアドバンス〈上級〉コースでの excellent 合格を目指し、法律の勉強をさらに深めたいと思いました。またグループ賞を受賞するに至りました結果を糧にして、今後も法律を活かした資格検定に挑みたいと思います。

（スタンダード〈中級〉コース・グループ賞・匿名・東洋大学 3 年）

アドバンスト〈上級〉コース

理解することを重視した学習を通して

この度は、栄えある賞を賜り、誠にありがとうございます。私は、大学法学部の2回生で、現在、公務員試験に向けて日々学習に励んでいます。法学検定試験を知ったきっかけは、大学の資格講座の先生に勧めていただいたことです。

同時期に行政書士試験の勉強をしており、学習の成果を形に残したいと考えた私は、行政書士とのダブル合格を目指し、法学検定試験の受験を決意しました。

私の勉強方法は、インプットよりもアウトプットに重点を置くことです。具体的には、インプットとアウトプットの比率を3:7に設定し、学習しました。まず、インプットでは授業をしっかり聞き、六法やテキストを通読しました。この際、暗記ではなく、理解を重視しました。特に法律の基本原則、条文の趣旨・目的、判例や学説の考え方を理解し、基礎を徹底的に固めました。次に、アウトプットとして問題集に取り組みました。繰り返し解くことで、解説が頭に浮かびやすくなり、深い理解へと繋がりました。また、資格講座の仲間と知識を共有したり、難しい問題を教え合ったりすることで、理論が整理され、知識が定着しました。さらに、学習中に気付いたことや考えたことは、メモとしてまとめ、メイン教材に追加して見返せるようにしました。これにより、効率的な復習が可能となりました。

試験2〜3カ月前には、スタンダード〈中級〉コースの問題集を1周して基礎を固め、その後、アドバンスト〈上級〉コースの過去問集に取り組みました。過去問は本試験を想定した形式で解き、過去3年分はいずれも合格ラインギリギリでした。残りの期間では、excellent合格に向け、弱点の補強に努めました。試験2週間前には行政書士試験が終了し、法学検定試験に専念しました。行政書士試験での出題が少ない刑法に重点を置き、それ以外の科目は問題集を繰り返し復習しました。試験本番では、得意科目である行政救済法から始めました。問題を解くごとに自信が深まり、難問にも前向きに取り組むことができました。

今回、高得点を取ることができたのは、これらの勉強方法を実践したことに加え、恵まれた環境があったことが大きな要因だと感じています。先生や先輩方から教わり、万全の体制の下で同じ目標を持つ同級生と切磋琢磨できたことが、私の学習を支えました。

私は大学卒業後、公務員を志望しています。将来、公務員として活躍するために、今後も法律を学び続けたいと考えています。また、団体での受験を通じて、法律の知識だけでなく、周囲の環境や仲間の大切さも学ぶことができました。今回得た学びを活かし、どのような目標にも挑んでいきたいです。

(アドバンスト〈上級〉コース・最優秀賞・志良輔さん 20歳・大阪府)

法律知識の効果測定に最適な「法学検定試験」

1 受験の動機

私は、高校卒業後すぐに国家公務員一般行政職として就職し、37 年目になります。私の担当業務は、民法や会社法等の実体法をはじめ、不動産登記法や民事訴訟法等の手続法、憲法や行政法等の公法といった幅広い法律知識が必要な内容です。約 20 年前に当時の法学検定 2 級を受験しましたが、まったく点数がとれず不合格でした。その後、司法書士、土地家屋調査士や行政書士試験に合格し、司法試験予備試験短答式にも 4 回合格したことを機に、高品質で高難度な法律知識の効果測定として、法学検定試験アドバンスト〈上級〉コースの受験を決意しました。上位数名について個人表彰制度があるのも、とてもモチベーションが上がりました。

2 勉強方法

民法および民事訴訟法は、既存の学習で対応できると思いましたので、「法学検定試験過去問集アドバンスト〈上級〉コース」（以下「問題集」）を利用して、出題形式と時間配分を確認しました。憲法および刑法は、「法学検定試験学習ツール」を利用し、通勤途中の隙間時間に解きました。行政法は、苦手意識があったので、公式問題集のほか、予備試験の過去問を 3 年分解きました。法学基礎論は、問題集掲載の参考文献を中心に、日本法制史、司法制度論および法的思考の基礎に絞って学習しました。

3 将来の目標等

法学検定アドバンスト〈上級〉コース受験の効用として、まずは、法的知識の体系的な理解が挙げられます。そして、学習を続けることで、実際のさまざまな事例に際して、法的思考能力を駆使し、条文や趣旨から判断枠組みを定立して、対立利益を発見、抽出し理論構成することで、妥当な結論を導くことができるようになります。今後も、法律の世界に関心を持ち続け、少しでも世の中に貢献できるよう、生涯にわたり学習を継続したいと思います。

（アドバンスト〈上級〉コース・優秀賞・梶山大輔さん 50 代・千葉県）

表彰式を目指して

私は、現在司法書士事務所に勤務しながら司法書士を目指している者です。

私が、今回アドバンスト〈上級〉コースを受験したのは、令和 6 年度の司法書士試験に合格できず、悶々としていたのですが、翌年の試験に挑戦するにあたって、このコースの受験を通じて、今後の自分の弾みにしたいと考えたからです。また、法学検定試験に表彰制度があることを知り、折角受験するからには、単に合格するだけではなく、最優秀賞を受賞できる程の実力を身につけることが、例年 8 割程度の正答率を求められる司法書士試験の合格にも直結するとも考えたからです。

そのために、平成 26 年度から令和 5 年度までの過去問を集め、受験する科目（法学基礎論・憲法・刑法・民法・民事訴訟法・商法）を徹底的に分析しました。また、元々司法書士試験の勉強を通じて、試験範囲の内容や過去問等をフルデジタル化していたのですが、上記の過去問についても、解説も含めてその中に組み込み、過去問の周回や知識の定着を無理なく確実にできるよう仕組化しました。

また、科目としては、特に刑法が苦手だったので、これについては他資格（司法書士試験・公務員試験）の問題も含め、入念に学習を進めました。その結果、本試験では、過去 10 年未出題だった公務執行妨害罪の論点も含めて柔軟に対応でき、得点が大幅に伸び、今回の受賞に繋げることができました。

結果的に最優秀賞は受賞できませんでしたが、年明けに優秀賞受賞の報を聞くことができ、司法書士試験の合格に向けて、大きな弾みになったものと感じています。本試験を通じて学んだことを踏まえ、今後も司法書士試験の合格に向けて、研鑽を続けていきたいと考えております。

最後に、普段から私のことを支えてくれております、家族や勤務先の先生に深謝しつつ、この体験記を終えたいと思います。この度は、このような素晴らしい賞を頂き、本当にありがとうございました。

（スタンダード〈中級〉コース・優秀賞・石橋 侑大さん 19 歳・東京都）